

<点検>(評価内容)一覧

「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針作成検討会」より

令和3年度 自己点検・自己評価

評価基準 : ・よく当てはまる:3 ・大体当てはまる:2 ・当てはまらない:1

		令和3年度				令和4年度				
I	教育理念・教育目的	担当	評価点	評価	改善点・対策	担当	評価点	評価	改善点・対策	
1-1	教育理念・教育目的は、自養成所の教育上の特徴を示している。	貴島・出口	3	・教育理念や教育目的・目標は、学生便覧や学校案内、ホームページに掲載している。また、各教室にも掲示して学生への浸透を図っている。	・令和5年度 履修要覧に授業計画も添付する。授業計画の書式は統一したものを使用する。 ・母体病院以外の医療機関や施設にも卒業生に対する評価を依頼し、教育上の課題を明確にしている。	玉利・大川内・中原	3	・教育理念や教育目的・目標は、学生便覧や学校案内、ホームページに掲載している。また、各教室にも掲示して学生への浸透を図っている。 ・新入生を対象にした研修で、教育理念・教育目的・教育目標・校訓をもとにしたシンボルマーク作成を取り入れている。 ・学校教育法、教育基本法、指定規則の要件に沿って運営している。	・教育内容・教育方法を載せた授業計画(書式)の統一し、令和5年度 履修要覧に反映させる予定である。 ・教育環境として、教員については学生便覧に運営機構として載せており、教育方法については履修要覧に載せている。 ・卒業時点においてもつべき資質として、学生便覧の履修要覧に「本校のめざす看護師像」を載せている。令和5年度からDPを載せる予定である。 ・看護の質保障の妥当性については、母体病院に努める卒業生の情報をもとに評価している。	
1-2	教育理念・教育目的は法との整合性がある。		3					3		
2-1	教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に示している。		3					3		
2-2	教育理念・教育目的は実際に学生の学習の指針になっている。		3					3		
3-1	教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育内容を設定しているかを述べている。		3					3		
3-2	教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育方法をとるのかを述べている。		3					3		
3-3	教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育環境をとるのかを述べている。		3					3		
4-1	教育理念・教育目的は、看護、看護学教育、学生観について明示している。		3					3		
4-2	看護、看護学教育、学生観は実際に教師の教育活動の指針となっている。		3					3		
5-1	教育理念・教育目的は、養成する看護師等が卒業時点においてもつべき資質を明示している。		3					3		
5-2	卒業時点にもつべき資質は、社会に対する看護の質を保障するのに妥当なものとなっている。	3			3					
		令和3年度				令和4年度				
II	教育目標	担当	評価点	評価	改善点・対策	担当	評価点	評価	改善点・対策	
1	教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性がある。	貴島・出口	3			玉利・大川内・中原	3		・教育目標は、教育理念・教育目的と一貫している。教育内容は卒業時の到達目標に對し体系的に抽出した。DPや目指す看護師像をもとにカリキュラムツリーで科目の関連性を確認し進捗も決定した。新カリキュラムは2年課程は令和5年度から施行となる。 ・教育目標の内容は卒業時の到達レベルに相応している。	
2-1	教育目標は、設定した教育内容を網羅している。		3				3			
2-2	教育目標は、最上位の目標として、教育活動のゴールが読みとれるものとなっている。		3				3			
3-1	教育目標は、目標内容と到達レベルが対応している。		3				3			
3-2	教育目標は、具体的で実現可能なものとなっている。		3				3			
4	看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している。		3				3			
5	卒業後の継続教育の考え方を示した上で、教育目標を設定している。	3		3						
		令和3年度				令和4年度				
III	教育課程経営	担当	評価点	評価	改善点・対策	担当	評価点	評価	改善点・対策	
<教育課程経営者の活動>		玉利・中園・中原			・第5次カリキュラム改正の施行に向けて、教職員全体で内容理解と一貫した運用について周知を図る。 ・新カリキュラムのシラバスを作成する。 ・学生に自己点検・自己評価に授業アンケート結果が反映されることを意識してもらうために明文化を検討する。	貴島・橋元・出口			・現行カリキュラムの教育理念・目的・目標からおりた科目の考え方が明記されている。・第5次カリキュラム改正の施行に向けて、教員全員で教育内容と一貫した運用について検討ができた。しかし、教育評価の関連性について明確にできていない。 ・単位履修については、学生便覧や履修要覧に明記している。順序は教育的な効果をふまえ、進捗表として学生便覧に載せている。 教育課程の評価では、各科目の評価と「卒業時の到達目標」「自己評価アンケート」「就職先の管理者からの聴き取り」により行っている。 ・学生に自己点検・自己評価に授業アンケート結果が反映されることを意識してもらうための学生便覧への明文化ができておらず、結果によって評価者が不利益に被ることがないように規定に明文化する。	
1-1	教育課程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育評価との関連性を明確に理解している。		3				3			
1-2	教育課程編成者と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている。		3				3			
<教育課程経営者の活動>										
1-1	看護学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。		3				3			
1-2	学修の到達について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。		3				3			
1-3	学生の成長について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。		3				3			
<科目、単元構成>										
1-1	明確な考え方と根拠をもって科目を構成している。		3	・現行カリキュラム施行後から教職員の入れ替わりがあるが、学生便覧や校内内規・教務便覧によって周知され一貫された活動が行われている。			3			
1-2	明確な考え方と根拠をもって単元を構成している。		3	・令和5年度より新カリキュラムが施行されるが、現行カリキュラムの評価を行い、当校の課題を見出し、カリキュラム編成ガイドラインを基に編成することができた。			3			
1-3	科目と単元の構成の考え方は教育理念・目的、教育目標と整合性がある。	3	・今後は、科目・単元について詳細を検討し、シラバスを作成する予定である。	3						
2-1	構成した科目は看護師等を養成するのに妥当である	3	・自己評価委員会規定には自己点検・評価の方法を明記してあるが、学生便覧には学生が他者評価を行うことが記載されていない。	3						
2-2	構成した科目は養成所の特徴をあらわしている。	3		3						
<教育計画>										
1-1	単位履修の方法とその制約について教師・学生の双方がわかるように明示している。	3		3						
1-2	単位履修の方法は学生の単位履修を支援するものとなっている。	3		3						
2	単位履修制の考え方を踏まえつつ、看護師等になるための学修の質を維持できるように、科目の配列をしている。	3		3						
<教育課程評価の体系>										
1-1	単位認定の基準は看護師等に必要学修を認めるものとして妥当である。	3		3						
1-2	単位認定の方法は看護師等に必要学修を認めるものとして妥当である。	3		3						
2	他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている。	3		3						
3-1	教育課程を評価する体系を整えている。	3		3						
3-2	評価結果の活用における倫理規定を明確にしている。	3		2						
<教員の教育・研究活動の充実>										
1-1	教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している。	3	・専門に応じて講義を受け持てるよう配分している。 ・教材研究時間確保は業務整理の上確保している。 ・外部研修についてはリモートを活用し、受講できた。 ・教員間での相互研鑽の場である研究授業は実施できなかった。	3	・第5次カリキュラム改正に向け、新科目(横断科目)を中心とした研修を受講する。 ・研究授業の実施が必要である。					
1-2	教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている。	3		3						
2-1	教育課程の実践者である教員が自ら成長できるよう、自己研鑽のシステムを整えている。	2		3						
2-2	教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている。	2		3						
<学生の看護実践体験の保障>										
1-1	臨地実習施設は、養成所の個別の教育理念・教育目的、教育目標を理解している。	出口・大川内	3	・各実習要項を通じて教育目的や目標を説明し、理解していただいている。 ・臨地指導者の大まかな役割は要項説明の際に依頼している。しかし、新型コロナウイルス流行中の受け入れで臨床の状況にも左右されるため、詳細は指導教員との打ち合わせのもと随時役割を担ってもらっている。	・新型コロナウイルス流行中の受け入れで臨床の状況にも左右されるため、連携を密に図っていく必要がある。	玉利・山田・中原・花里	3	・各実習要項を通じて教育目的や目標を説明し、理解していただいている。 ・臨地指導者の大まかな役割は要項説明の際に依頼している。しかし、指導者の役割を明示した文書を用いていない。また、臨地実習が感染症で不可能な場合は学内実習に振り替えてできる限り臨地に近い形で行うよう努めた。しかし、新型コロナウイルス流行中の受け入れで臨床の状況にも左右されるため、詳細は指導教員との打ち合わせのもと随時役割を担ってもらっている。 ・受け持ち対象については個人情報保護の誓約書を提出し、受け持ち時の同意書、同意を得た旨を記録に残し、了承を得て受け持っている。実習の学習の中で倫理的関わりや人権の尊重を指導している。 ・ヒヤリハット、事故報告書の提出を受けて分析、フィードバックし安全教育に繋げている。		
1-2	臨地実習施設は学生の看護実践の学習を支援する体制を整えている。		3				3			
2-1	臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者の役割を明確にしている。		2				2			
2-2	臨地実習指導における学生の学びを保障するために、教員の役割を明確にしている。		3				3			
2-3	臨地実習指導者と教員の協働体制を整えている。		3				3			
3-1	学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示している。		3				3			
3-2	対象者の権利を尊重する考え方に基づいて、学生への指導を計画的に行っている。		3				3			
4-1	臨地実習において学生が関係する事故を把握、分析している。		3				3			
4-2	学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っている。		3				3			

		令和3年度			令和4年度				
IV	教授・学習・評価過程	担当	評価点	評価	改善点・対策	担当	評価点	評価	改善点・対策
	<授業内容と教育過程との一貫性><看護学としての妥当性><授業内容間の関連と発展>								
1	授業の内容は、教育課程との関係において、当該学生のための授業内容として設定されている。		3	・昨年度と評価は変わらない。但し、授業内容間の重複や整合性、発展性については、第5次カリキュラム改正に向けてのカリキュラム評価で重複部分を話し合うことができた。	・令和5年度より第5次カリキュラムが実施される。科目間で調整した内容で授業内容を検討していく。 ・領域横断科目の教育内容と授業計画の調整を行う必要がある。		3	新カリキュラムを構築する中で、教育内容を見直し、教育目標との整合性や重複内容を順序性等を整理することができた。評価項目2-4にある「発展性」について、構想はあるものの、具体的に示していない。	教育目的・目標に近づけるために、1年次から3年次まで何をどう発展させていくかを教員間で検討し、明確にすることが課題である。
2-1	授業内容のまとまりの考え方を明確に述べている。		3				3		
2-2	授業内容のまとまりの考え方は、科目目標との整合性をもっている。		3				3		
3	授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある。		3				3		
4	授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている。		2				2		
	<授業の展開過程>								
1	授業形態(講義、演習、実験、実習)は、授業内容に応じて選択している。		3				3		
2	授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している。		3				3		
3	授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。		3				2		
4	学生に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。		3		・臨床判断力を育てるための教育方法を検討する。		3		・学生の学習が深化、発展させるためには、カリキュラムの中で一貫して、何をどう発展させるかを考える必要がある。 ・教員の協力が必要な授業形態については、予めシラバスに明示しておくことが課題である。
	<目標達成の評価とフィードバック>								
1-1	評価計画を立案し、実施している。		3				2		・形成評価を計画し、授業改善につなげる。 ・各科目の評価をもとに、教育目標に繋がっているか検証する。
1-2	評価結果に基づいて、実際に授業を改善している。		3				2		
2-1	学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。		3				3		
2-2	教育目標の達成状況を多面的に把握している。		3				2		
3-1	学生に単位認定のための評価基準と方法を公表している。		3				3		
3-2	単位認定の評価には公平性が保たれている。		3				3		
	<学習への動機づけと支援>								
1-1	シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性がある。		3				3		・学生の学習への動機づけと支援につながるようなシラバスを作成する。(現在作成中である)
1-2	シラバスの提示や学習への指導は、学生の学習への動機づけと支援になっている。		3		・シラバスの様式の変更を検討しているが、次年度は例年通りの形で行く。令和5年度以降のシラバスについて検討していく。		2		

		令和3年度			令和4年度				
V	経営・管理過程	担当	評価点	評価	改善点・対策	担当	評価点	評価	改善点・対策
	<設置者の意思・指針>								
1-1	養成所の管理者は教育理念・教育目的についての考え方を明示している。		3				3		
1-2	養成所の管理者は教育課程経営についての考え方を明示している。		3				3		
1-3	養成所の管理者は教育評価についての考え方を明示している。		3				3		
1-4	養成所の管理者は養成所の管理運営等についての考え方を明示している。		3				3		
1-5	明示した管理者の考えと、設置者の意思とは一貫性がある。		3				3		
1-6	教職員は養成所の設置者と管理者の考え方を理解している。		3				3		
	<組織体制>								
1-1	養成所の組織体制は、教育理念・目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている。		3				3		
1-2	意思決定システムが明確になっている。		3				3		
1-3	意思決定システムは、組織構成員の意思を反映できるように整えられている。		3				3		
1-4	意思決定システムは、決定事項が周知できるように整えられている。		3				3		
2-1	組織の構成と教職員の任用の考え方と、教育理念・教育目的達成との整合性がある。		3				3		
2-2	教職員の資質の向上についての考え方と対策には教育理念・教育目的達成との整合性がある。		3				3		
	<財政基盤>								
1-1	財政基盤を確保することについての考え方が明確である。		3				3		
1-2	財政基盤を確保することについての考え方は、学習・教育の質の維持・向上につながっている。		3				3		
2-1	教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解している。		3				3		
2-2	教職員のそれぞれの観点からの財政についての意見は、経営・管理過程に反映できるようになっている。		3				3		
	<施設設備の整備>								
1-1	学習・教育環境の整備について、管理者の考え方を明示している。		3				3		
1-2	管理者の考え方に基づいて整備計画を立案し、実施している。		3				3		
2-1	看護の専門職教育に必要な施設設備を計画的に整備している。		3				3		
2-2	医療・看護の発展や学生層の変化に合わせて、施設設備を整備・改善している。		3				3		
3-1	養成所が設置されている地域環境との関連から学生および教職員にとっての福利厚生施設設備の整備を検討している。		3				3		
3-2	学生が学生生活を円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設設備を整備している。		3				3		
	<学生生活の支援>								
1-1	学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的に整えている。		3				3		
1-2	学生が活用しやすいように学生生活の支援体制を整えている。		3				3		
1-3	支援体制は、実際に学生に活用され、学修の継続を助けている。		3				3		
	<養成所に関する情報提供>								
1-1	教育・学習活動に関する情報提供を関係者(保護者等)に行っている。		2				2		
1-2	関係者(保護者等)への情報提供は関係者から協力・支援を得ることにつながっている。		2				2		
2-1	看護師等を養成する機関としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行っている。		3				3		
2-2	広報の内容は、社会的説明責任を果たすものになっている。		3				3		

	<養成所の運営計画と将来構想>						
1-1	養成所は明確な将来構想のもとに、運営の中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している。	3	・第5次カリキュラム改正を見据えて中長期計画に反映している。 ・年度はじめに前年度の評価と当該年度の計画について共有している。前年度の評価に基づき、修正・追加がなされている。	3	・第5次カリキュラム改正を見据えて中長期計画に反映している。 ・年度はじめに前年度の評価と当該年度の計画について共有している。前年度の評価に基づき、修正・追加がなされている。		
1-2	その実施・評価は将来構想との整合性をもっている。	3		3			
	<自己点検・自己評価体制>						
1-1	自己点検・自己評価の意味と目的を理解している。	3	・自己評価委員会に全職員が参加しており、目的や評価方法を確認している。 ・評価は「評価の考え方」と「点検」を参考に、毎年度末に実施している。結果は、講師会議で公表し、意見を頂きながらカリキュラム運営や授業実践に活用している。また、ホームページで公表している。	3	・令和5年のカリキュラム改正に向け、具体的な科目構成・授業構成に入る段階となる。評価結果を繋げられるよう全職員での話し合いを継続する。	3	・自己評価委員を中心に、委員会に全職員が参加しており、目的や評価方法を確認している。 ・評価は「評価の考え方」と「点検」を参考に、毎年度末に実施している。結果は、講師会議や第3者評価委員会でも公表し、意見を頂きながらカリキュラム運営や授業実践に活用している。また、ホームページでも公表している。 ・第5次カリキュラム改正では、評価結果も参考に、教育理念・目的・目標の見直しを行った。
1-2	実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確にもっている。	3		3			
2-1	自己点検・自己評価体制を整え、運用している。	3		3			
2-2	自己点検・自己評価は、養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックするように機能している。	3		3			
2-3	自己点検・自己評価体制は、養成所の教育理念・教育目的、教育目標の維持・改善につながるように機能している。	3		3			

令和3年度

令和4年度

VI	入学	担当	評価点	評価	改善点・対策	担当	評価点	評価	改善点・対策
1	教育理念・教育目的との一貫性をもって入学者選抜についての考え方を述べている。	児玉・東園・中原	3	・入学者選抜基準は学校管理マニュアルの入学試験判定基準に準拠されており、判定の目安が決められているが、受験時の姿勢や調書内容を含めた将来性など総合的に検討し、入学者を選抜している。	・令和5年度は4名の退学者がいた。入学者選抜についての妥当性の分析が課題のままである。分析・評価ができれば、入学試験判定基準の改訂も必要である。	貴島・橋元	3	・入学者選抜基準は学校管理マニュアルの入学試験判定基準に準拠されており、判定の目安が決められている。しかし、前年度課題であった入学者選抜についての妥当性の分析が行っていない。令和4年度入学者のうち6名が退学した。入学者選抜の妥当性と教育効果の観点から分析・検証する必要がある。	・入学者選抜方法の妥当性と教育効果の観点から分析・検証する。
2	入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の観点から分析し、検証している。		2				2		

令和3年度

令和4年度

VII	卒業・就業・進学	担当	評価点	評価	改善点・対策	担当	評価点	評価	改善点・対策
1	卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている。	児玉・東園・中原	3	・卒業時の到達状況については、27期生から卒業時の到達度評価を用いている。 ・卒業生の就業先との情報交換や調査の実施などは、母体病院など一部に限られている。 ・卒業生の活動状況の把握や分析結果については、教育理念・教育目的・目標、授業展開への活用は出ていない。	・看護師の働く場については、看護協会から3年次に説明してもらっているが、卒業生の活動状況を理念や目的・目標・授業展開までは活用出来ていないことから、把握方法や情報の管理方法について検討を行う必要がある。	大川内・牟禮・英	3	・卒業時の到達状況は卒業時技術評価を用いて行っている。そのうち、技術的側面については分析の上カリキュラム検討の材料として活用した。 ・卒業後の調査や情報交換は母体病院や医師会内医療機関など一部に限られている。卒業生との連絡経路も確立していない。得られる情報が断片的であり、分析が難しく、教育活動に反映できていない。	・卒業生の活動状況の系統的情報収集ができておらず、活用が困難なことから、把握方法や情報の管理方法のシステム化について検討を行い、分析や活用に繋げていく必要がある。
2-1	卒業生の就業・進学状況を分析している。		3						
2-2	卒業生の就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。		3						
3-1	卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。		2						
3-2	卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。		2						
4-1	卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。		1						
4-2	卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。		1						

令和3年度

令和4年度

VIII	地域社会／国際交流	担当	評価点	評価	改善点・対策	担当	評価点	評価	改善点・対策
	<地域社会>	出口・玉利・中園	3	・今年度は、地域交流会の他に社会福祉協議会や阿久根市の協力を得て、ボランティア活動を実施し、地域貢献や地域活動への参加ができた。 ・募金活動など地域貢献への参加は学生が主体的に実施している。	・これまで地域と積極的に関わる機会が少なかったが、社会福祉協議会を通じ地域と関わる機会が増えた。今後も地域と交流できるよう感染症対策を考えながら企画していく必要がある。	玉利・山田・中原・花里	3	・今年度は、地域交流会の他に社会福祉協議会や阿久根市の協力を得て、ボランティア活動を実施し、地域貢献や地域活動への参加ができた。さらに第5次カリキュラム改正の中で地域・在宅看護論の授業で地域のニーズや健康課題を知り看護の分野でアプローチをしていく方法を学ぶ予定である。 ・募金活動など地域貢献への参加は学生が主体的に実施している。	・今後も社協や阿久根市と連携を行い、地域交流を計画していく。
1-1	社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。								
1-2	看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的にしている。								
2-1	養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段をもっている。								
2-2	養成所から地域社会へ情報を発信する手段をもっている。								
3-1	養成所が設置されている地域の特徴を把握している。								
3-2	地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。								
	<国際交流>								
1	国際的視野を広げるための授業科目を設定している。								
2	国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている。								
3	海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えている。								
4	留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制を整えている。	1							

令和3年度

令和4年度

IX	研究	担当	評価点	評価	改善点・対策	担当	評価点	評価	改善点・対策
1	教員の研究活動を保障(時間的、財政的、環境的)している。	出口・玉利・中園	2	・今年度はZOOMでの研修参加ができていた。 ・新カリキュラム準備に費やす時間が多く、自己研鑽の時間確保が困難であった。 ・研究に関する助言などの体制は整っているが、研究に価値を置くという視点で考えると、支援しあう素地は現在のところない。	・研究活動を希望する場合は、学会入会や研究の研修参加を行い、研鑽する努力が必要である。	大川内・牟禮	2	・今年度は厚労省の教員養成支援事業によるEラーニングで全員の教員が科目選択の上履修した。 ・新カリキュラム準備や検討に時間を多く割いたこともあり、研究発表事例はなかった。 ・研究に関する助言などの体制は整っているものの、研究への価値づけという面では優先順位が下がってしまっている状況である。	・研究の視点はあるため、教育活動と研究活動を両立できるような時間・人員の配分が必要である。
2	教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている。		3						
3	研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所内にある。		1						

自己点検・自己評価の項目別平均点(令和2年度・令和3年度)

自己点検・自己評価項目	R3平均点	R4平均点
I. 教育理念・教育目的	3.0	3.0
II. 教育目標	3.0	3.0
III. 教育課程経営	2.9	2.9
IV. 教授・学習・評価過程	2.9	2.6
V. 経営・管理過程	2.9	2.9
VI. 入学	2.5	2.5
VII. 卒業・就業・進学	2.1	2.1
VIII. 地域社会／国際交流	2.3	2.4
IX. 研究	2.0	2.0

